

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-31

とうかいどうのうきよえがいろどるけいかん
東海道の浮世絵が彩る景観

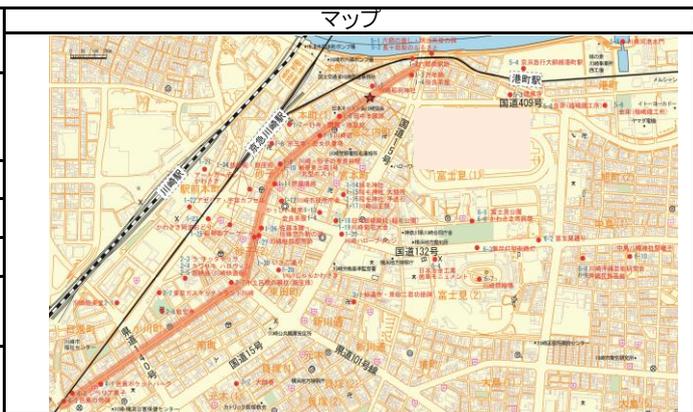
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北～川崎駅前南～八丁噺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



写真撮影：川崎区役所地域振興課

所在地	川崎区本町1～2丁目、砂子1～2丁目、小川町、日進町、下並木
問い合わせ	川崎区役所まちづくり推進部地域振興課
TEL	044-201-3136
FAX	044-201-3209
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp
URL	
交通	



基礎情報

■「東海道川崎宿2023」と川崎区役所は、かつての東海道川崎宿にあたる本町、砂子、小川町付近に、江戸時代の宿場町をイメージできる景観を形成することや、賑わいを創出することを目的として、浮世絵を活用した景観創出の取組みを実施している。

由来・エピソード

■「東海道川崎宿2023」は、東海道川崎宿の歴史や文化を活かしたまちづくりを進める団体。「2023」は、東海道川崎宿が成立した元和9年(1623)から400年目の平成35年(2023)のことを示している。市民が提案した「東海道川崎宿2023いきいき作戦」では、節目となる2023年に向けて、東海道沿道を5つに分けたゾーン構想や様々な取組案を明記したプロジェクトが示しており、積極的な活動が行われている。

■「浮世絵トランスボックス」

砂子一丁目付近の14か所(平成28年3月時点)のトランスボックス(変圧器)には、二代歌川豊国作「名勝八景 玉川秋月 玉川鮎汲の図」など、江戸時代の情景が描かれた浮世絵がラッピングされている。

■「東海道川崎宿浮世絵タペストリー」

歌川広重作「東海道五拾三次 川崎(六郷渡舟)」が描かれたタペストリー。東海道沿いの店舗等の協力のもと、22か所に設置されている(平成28年3月時点)。各店舗等に設置されているタペストリーは、街歩きをする人々や買い物客の目を楽しませている。

■「東海道川崎宿フラッグ」

東海道沿いの街路灯に各商店街の協力のもと、東海道川崎宿フラッグが設置されている。フラッグには、「東海道中膝栗毛」の主人公「弥次さん喜多さん」をイメージしたキャラクターが描かれ、東海道川崎宿を街歩きする人々の道標となっている。

■「東海道川崎宿浮世絵ラッピング自販機」

三代目歌川豊国が描いた「役者見立東海道五十三駅」の二枚が、砂子一丁目の二台の自販機にラッピングされている。浮世絵には、表情豊かな役者の姿と川崎付近の当時の情景が描かれている。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-28)シャッター浮世絵ギャラリー